

「ポジティブでアサーティブな子どもを育てる

ールールとリレーション（あたたかなふれあい）が育つ

「クラス会議」を通してー」

高松市立鶴尾小学校
教諭 瀧本 和代

1 はじめに

本学級（3年生→4年生）には、学習においても生活においても苦戦している子どもたちが多く、子どもの不適切な行動には理由がある。表面に見えることだけで決めつけずに、背景を考え、周りの大人が適切に関わることで子どもは変わると信じている。

例えば、3年生で受け持ったAさんは、自分の思いが通らないと友だちや教師に暴力をふるってしまうことがあった。まずは、Aさんがモデリングできるよう教師自身が非暴力でアサーティブな態度で接するようにした。そして、Aさんが変わることを、私自身が本当に信じる。「人は変われる。」Aさんにだけではなく、学級全体に常々語ってきたことである。教師のポジティブでアサーティブな関わりは、学級集団にも波及する。「Aさんが〇〇さんの机もきれいにふいていたよ。」と大掃除の時にBさんが伝えてくれた。友だちからの肯定的な言動からも自己肯定感が高まり、3年生の1学期が終わる頃からAさんの暴力はほとんどなくなった。しかし、相手の話が最後まで聞けなかったり、怒りのコントロールがうまくできなかったりと人間関係の面では依然苦戦していた。相手の話を穏やかに聴き、自分の考えをアサーティブに伝えることができたなら、豊かな人間関係が築けるのではないか。Aさんをはじめ、クラスの一人ひとりがあたたかなふれあいでつながってほしいと願っていた時に出会ったのが、「クラス会議」という手法だ。1日10分、毎日続けることで、ルールとリレーション（あたたかなふれあい）があるクラスが育つと言う。手軽で効果があるのならと取り組んでみることにした。

2 実践の内容・方法

(1) 「クラス会議」のよさ

「クラス会議」のよさは、「短時間のシンプルな活動で、毎日無理なく続けられる。」「準備がいない。」というところだ。そこで、1日10分、朝の会の時間を活用し、実践した。

解決した議題の足跡

(2) 活動の流れと準備物

<活動の流れ>

- 1 輪になる
- 2 ありがとうみつけ
- 3 議題の話し合い

<準備物>

- 時間設定（タイマー）
- 議題箱
- トーキングスティック
- 議題を書く紙



① 「輪になる」

始めた頃は、輪になるだけでも時間がかかったが、回数を重ねるうちにスムーズにできるようになった。最初は出席番号順にすると並びやすかった。



【 「輪になる」 】

② 「ありがとうみつけ」

日直からスタートし、となりの人に「ありがとう」を伝え、トーキングスティックを渡す。トーキングスティックを受け取ったら、「ありがとう」を伝えることを繰り返し、1周するまで回していく。

③ 「議題の話し合い」

1回の「クラス会議」で扱う議題は1こ。毎朝、議題箱の中から選ぶ。

議題を書いた人が議題を読み、その他の人は、解決策を考える。トーキングスティックが回ってきたらアイデアを言って、となりの人にトーキングスティックを渡し、1周するまで回していく。そして、議題を書いた人が、みんなが出してくれたアイデアの中から試したいものを選び、「みなさん、ありがとうございました。」とお礼を言う。

(3) 約束ごと

- ① 話し合っしてほしいことがあれば、議題を書く紙に書いて議題箱に入れる。
- ② 自分のところにトーキングスティックがある時には「ありがとう」を伝えたり、議題に対する解決方法が言えたりする。
- ③ 批判しない。
- ④ パスしてもいい。

(4) 心がけていること

私が心がけたことは、「結果を求めすぎない、焦らない」「プロセスを大切にする」「ちょっとした進歩を大切にする」「よいところに目を向ける」「完璧を求めない」「子どもに信頼感を示す」ということだ。

3 実践の成果

(1) 自己肯定感、他者肯定感が育つ

始めた頃は、「ありがとう」が見つからず、なかなか言えない子もいた。しかし、毎日続けていくうちに、全員が言えるようになった。

「ありがとうみつけ」を通して、毎日友だちからポジティブな言葉がもらえるので、自己肯定感が高まった。「ありがとう」を言うために、友だちのしているよいところを見ようとするので、他者肯定感も高まった。日常生活でも「ありがとう」の言葉が多くなり、学級全体に認め合いや助け合いの空気ができていった。

(2) 友だちへの関心が高まる

ある日の議題。「お兄ちゃんがわたしの音読カードに勝手に落書きをします。どうしたらいいですか。」と議題を読むCさんに、「えっ、Cちゃん、お兄ちゃんいたんや?」「ぼくのお兄ちゃんも、勝手にぼくの宿題プリントする時があるんや。こまるよなあ。」などと言葉を返す子どもたち。こういうちょっとしたことで親密さはぐっと深まると感じた。なかまからの共感的な反応にCさんも笑顔だった。

(3) 相手を責めずアサーティブに解決しようとする

「〇〇さん(Aさん)がわたしのことを原始人と言ってきました。どうしたらいいで

すか。」と議題を出したDさんに、「やめてと言ったらいい。」「言い返したらいい。」「無視したらいい。」子どもたちからいろいろな解決方法が出される。教師としては相手を大切にしたい建設的な解決方法を出してほしいと思ったが、信じて見守る。そんな時、Eさんが『わたしが原始人なら、あなたも原始人やね。同じ原始人どうしなかよくしよう。』と言ったらいいと思います。」と発言し、子どもたちは大爆笑。このことがきっかけになって、しばらくはこのパターンの解決方法が多く出された。相手を責めるのではなく、ユーモアでアサーティブに対処しようとする事の良さに気づいたのだ。教師が介入しなくても、相手を大切にしたい建設的な解決方法が出せるようになった。集団の中での育ち合いはすごい。

(4) ポジティブに解決しようとする

「そうじの時間、ふざけたり、おしゃべりしたりする人がいます。どうしたらいいですか。」という議題を出した人がたくさんの解決方法から選んだのは、Cさんの「その日にがんばっている人を見つけて名前を書いて掲示する。」だった。その日から取り組み、そうじが終わるとたくさんの名前が書かれていった。

(5) 規範意識が育つ

初めて「クラス会議」をした時には、友だちが解決方法を出すたびに「はあ？なんで？」「それはいかんやろ。」「なぐったらいいんや。」「あいな、それは〇〇したらえんやで。分かった？」と強く反応し、「批判しない」「トーキングスティックが回ってきたら発言する」というルールがほとんど守れなかったAさんであった。それでも、「楽しかった！またやりたい。」と思いを伝えに来たAさんは、翌朝、「先生、クラス会議やろう。」と誰よりも早く準備を始めた。2週間が過ぎた頃には、批判したり、勝手に発言したりする回数はだんだん少なくなった。「クラス会議」の時だけでなく、ふだんの生活の中でも相手の話を聞いたうえで、自分の言い分をアサーティブに伝えて解決しようとするようになった。

(6) みんなのためになることが、本当にできると実感できる

「ごみ箱に『もやせるごみ』『もやせないごみ』と書いているのに、鉛筆けずりのかすを『もやせないごみ』に入れたり、ビニールを『もやせるごみ』の中に入れたりする人がいます。分別するのが大変で、本当に困っています。アイデアをください。」私の出した議題に、「あいな、ごみ箱の上を書いてたらいと思う。『鉛筆けずりのかすはもやせるごみ』とか書いておくんや。」という解決方法を出してくれたFさん。すばらしい。すぐに、厚紙に書いてごみ箱の上に貼った。



【クラス会議後のごみ箱】

(7) 安心・安全が守られた場での話し合いで、友だちに対する見方が変わっていく

体育の時、勝ったことに興奮して女子が大喜びしていていやだったという議題がAさんから出された。約2週間前に女子から男子へ同様の議題が出されたが、男子も相手の気持ちを考えながら喜ぶように気をつけていたのだ。いつものように解決方法を出していく中、ぼそぼそとつぶやいたが、「何？」とやや強めに迫るAさんに固まったGさんとHさん。そんな2人にAさんは「言いたいことがあるなら言って。」と穏やかに言った。とまどう2人に、私は「大丈夫。ちゃんとAさんは聴いてくれる。安心して自分の気持ちを話していいよ。」と声をかけた。GさんとHさんは思いを語り、Aさんは最後まで聴くことができた。GさんとHさんだけでなく学級の全員が、

今のAさんはちゃんと話を聴いてくれると認識できた。

(8) 何とかして解決しようとする力（問題に対処する力）が育つ

朝早く、Dさんが「私は、いじめだと思うんだけど、先生どう思う？」と迫ってきた。BさんとFさんが教室にいた数名の子たちに「Iと口きいたらいかんぞ。」と言っていたとのこと。さらに「それはいけないと思ったから、私、一人ひとりにそれがいいと思うかどうか聞いたんや。そしたら、みんな、それはおかしいって言ってくれた。」と続けるDさん。実は前日、帰宅後の遊びの中で3人が大げんかしたことをJさんの母親が私に知らせてくれていた。そこで、その日のクラス会議の議題に取り上げた。Dさんがいけないと感じた行動に、BさんとFさんも含めた全員がいけないと示した。1時間目の休み時間、「先生、Iさんと3人で話し合いした。もう仲直りしたけん。」とBさんとFさんが教えてくれた。

このように、何かあった時に「もしかしたら、解決できるかも・・・」とポジティブに思えたり、アサーティブに対処したりする空気が学級全体に広がってきた。

4 普及させたい取組と期待される効果

「クラス会議」は、過去は変えられないが未来は変えられるという考えのもと、原因さがしから解決さがしへとポジティブな考え方を練習する場である。子どもが不適切な行動をした時に、教師はともすれば厳しく指導して適切な行動をさせなければとなりがちであるが、本当は解決する力を子どもたち一人ひとりが持っている。教師ができることは、信じて見守り、解決方法を考える練習したり、失敗したりできる場を保障することだ。それが毎日確実にできるのが「クラス会議」である。毎日積み上げていくことで、困ったことが起こった時に、「きっと解決できる」とポジティブに考えることができるだろうと考える。

本校の現教の中でも紹介したり、教職員集団で体験したりしながら、ともに実践を積み重ねているところである。

5 課題及び今後の取組の方向

- ・わたしは、友だちのことは考えていなかったけれど、クラス会議をして話を聞いたり、考えたりできました。Aさんは、前は暴力ばかりしていたけれど、今は減りました。うれしいです。
- ・Aさんは、はじめはすぐに友だちの意見に反対していたけれど、今は自分の意見をピッコロ（トーキングスティック）が回ってきてから言っています。

これは、4年生の3月に書いた子どもたちのふり返りの一部である。Aさんは「Kさんは、クラス会議の時に〇〇さんと話している時があったけど、この頃はあまりしゃべらないで静かに待っているから、人間って変わるんだと思いました。」と書いていた。友だちのことをこのように捉えられるようになったAさん自身が、実は一番変わった。

今後は、「クラス会議」でたくさんの方がつくことを、子ども自身が認知できる手だてを考えたい。さらに、子どもたちの自己効力感が高まるフィードバックの在り方を探りたい。そして、必ず効果が実感できることを信じて、1日10分の短い活動を「長期的に」「継続的に」行っていきたい。

<参考文献>

- | | |
|------------------|------------|
| 「はじめちゃおう！クラス会議」 | 森重裕二・但馬淑夫著 |
| 「クラス会議で学級は変わる！」 | 森重裕二著 |
| 「クラス会議パーフェクトガイド」 | 森重裕二著 |